

JAL×コペルニク

人をつなぐ、世界を結ぶ。プロジェクト

成長途上にある新興国には、さまざまな社会課題があります。その解決のために私たち JALグループも貢献したい。そんな強い思いを形にし、非営利団体（NPO）とタッグを組んだプロジェクトです。

インドネシアの子どもたちに安全な飲み水を

学校で、力いっぱい身体を動かして喉が渴いた子どもたちが蛇口をひねり、水をごくごく飲み干す。日本では当たり前前の風景ですが、インドネシアではこれができない学校があるのが現実です。水道や浄水の施設が整っていない地域がまだまだ多いのです。

「インドネシアの学校に浄水器を送ろう！」チャリティ・マイルは、このような地域にある学校の子どもたちに、安全な水を十分に飲んでほしいという思いから、「JAL×コペルニク

人をつなぐ、世界を結ぶ。プロジェクト」の最初の活動として行われました。

JAL×コペルニクの コラボレーション

「JAL×コペルニク 人をつなぐ、世界を結ぶ。プロジェクト」は、2013年6月からスタートしました。

「コペルニク」は、2010年に米国で設立され、途上国の貧困などの課題解決を目指すNPO。その活動は国内外で高く評価され、優れた社会的課題解決を表彰する日本経済新



聞社の第2回「日経ソーシャルイニシアチブ大賞」国際部門賞を受賞しています。

JALは、この「コペルニク」とのコラボレーションを通じ、互いの強みを持ち寄り、苦手な領域を補完し合うことで相乗効果を発揮し、より大きな力を生み出そうとしています。

この取り組みは、コペルニクの活動支援に際し、スタッフの移動のための航空券を提供するだけではありません。

JAL×コペルニク 3つのプロジェクト

- 1 「JALチャリティ・マイル」を通じた、コペルニク・プロジェクトの支援
 - ・JMB会員の皆さまに途上国支援プロジェクトを紹介し、ご賛同いただける方々からマイルによる寄付を募ります。
- 2 「JALテック・レポーター」
 - ・JAL Facebook ページ上で公募したレポーターを現地に派遣し、JALチャリティ・マイルを通じて届けられたテクノロジーにより、実際に現地の人々の生活がどのように改善されるのか、レポートしてもらいます。
- 3 「テック・キャラバン！」
 - ・日本各地のものづくり企業や大学などに対して、途上国の現状や必要とされている技術・製品を紹介し、子どもたちを対象としたワークショップを行います。

途上国における社会課題の解決をより効果的に進めるために、それぞれのリソースや強みを持ち寄って、現在、3つのプロジェクトが進行中です。

マイルが課題解決の テクノロジーに変わる

一つ目は、「JALチャリティ・マイル」を通じた、コペルニク・プロジェクトの支援。JALマイレージバンク（以下、JMB）会員の皆さまに途上国支援プロジェクトをご紹介します、ご賛同いただける方々からマイルによる寄付を募ります。

このスキームの第1弾が2013年に実施した「インドネシアの学校に浄水器を送ろう！」チャリティ・マイルです。

インドネシアでは、安全な水を手に入れるのに大変な労力がかかる地域があります。例えば、煮沸消毒。これには大量の薪が必要で、森林伐採にもつながっているとされます。薪代は貧しい家計を圧迫し、薪拾いのために学校に行けない子どもたちもいます。薪を大量に燃やすことは、煙による健康被害やCO₂発生による地球温暖化にもつながります。

「インドネシアの学校に浄水器を送ろう！」チャリティ・マイルは、こうした地域の学校にシンプルで浄水器を届けるものです。3カ月間で1608名のJMB会員の皆さまより、合計632万4000マイルものご寄付をいただきました。その結果、浄水器800台を約160校の学校に届け、約1万6000人の生徒たちに安全な飲み水を提供することができました。

2014年は「フィリピンの診療所にソーラーライトを届けよう！」チャリティ・マイルを実施しました。フィリピンの島嶼部では、いまだ電気が通じていないことが多く、電力供給が不安定な地域がたくさんあります。903名のJMB会員の皆さまより、合計352万2000マイルを寄せていただいたことから、そうした地域の診療所や学校などの公共施設に612台のソーラーライトを届けられることになりました。夜間や曇天時の作業をより安全・効率的にできるように、日常生活の安全性向上や収入増加が期待されます。



**若者がその目で
みた世界**

二つ目の取り組みは、「JALテック・レポート」。これは、

JALチャリティ・マイルを通じて届けられたテクノロジーにより、実際に現地の人々の生活がどのように改善されるのか、JAL Facebook ページ上で公募したレポートを現地に派遣し、レポートしてもらう取り組みです。

マイルを寄付していただいたJMB会員の皆さまへその効果をきちんとご報告させていただくこと。より多くの皆さまに活動を知っていただくこと。そして日本と世界を結び、実体験をサポートする役割を担う航空会社として、これからの社会を担う若い世代に現地を訪れる機会を提供し、世界に目を向けてもらうこと。「JALテック・レポート」によって実現できることの数々は、大きな意味をもつと考えています。

2013年はインドネシア・スマトラ島パダンに2名の大学生を、2014年は9月初頭にフィリピン・ネグロス島に大学生1名、大学院生1名を派遣しました。



大学で開発学を専攻して

おり、実際に途上国に足を運んで自分の目で現状を見た、との思いから、今回のプログラムに応募しました。はじめの途上国。期待と不安が半々でしたが、現地の小学校訪問で出会った勉強熱心で人懐っこい子どもたちや村での生活体験とおして、多くのことを学びました。

今回のプログラムを通じ、「先進国が途上国を教える」といった認識は間違いであると改めて実感しました。まったく違う環境で育ってきたからこそ、価値観や考え方が違うからこそ、お互いに学びあえることがたくさんあります。私も、日本ではなかなか気づかなかったであろう、必死で何かを取り組むこと、人を思いやること、笑顔を忘れないことという3つのことの大切さを学びました。今回の経験を大切に、将来は人を幸せな気持ちにできる人になりたいと思います。

（JALテックレポート）
新井悠子 / 立命館アジア太平洋大学

なぜ、「コペルニク」なのか

環境とエネルギー分野、教育分野、水と衛生分野。コペルニクの取り扱うテクノロジーは、実に多岐にわたります。遠い国と国をつなぎ、途上国の社会課題解決を目指す彼らの活動は、「日本と世界を結ぶ」「安全・安心」「環境」「次世代育成」という4つの分野を中心にCSR活動を推進する私たちの取り組みと、お互いのベクトルが合っていると感じています。

例えば、フィリピンに届けたソーラーライト。シンプルなソーラーライトが、途上国の人々の生活にどのようなインパクトを与えることができるか考えてみましょう。日本とフィリピンをつなぎ、電気が通らず灯油ランプで暮らす地域にソーラーライトを届けること（日本と世界を結ぶ）は、煙の吸引による健康被害や火事のリスクを軽減させ（安全・安心）、CO₂の排出を抑制（環境）します。家計を圧迫する燃料費の負担を減らすことで子どもへの食費や教育費を切り詰めに済み、さらに、夜間に十分な明るさが得られるため、大人には収入増の機会を、子どもには勉強できる環境を提供する（次世代育成）ことにつながります。この例が象徴するように、コペルニク

私は、被災地や途上国など、水が不足している場所でも快適に利用できるトイレの開発を研究しています。これまで、私は「途上国」というと、環境に恵まれていないとか、暮らすのが大変だということ漠然としたイメージしか持っていない目を見たことで、そこに住む人たちにも家族がいて、友人がいて、そして自分たちと同じように幸せがあるという当たり前のことに気づかされました。また、灯油ランプでの生活体験、そして村での料理体験から、火や火災の恐ろしさを改めて感じました。

（JALテックレポート）
藤平圭亮 / 東京理科大学大学院

これまでは私自身、現在の日本の医療や国について考えることが少なく、視野が狭かったのではないかと実感しました。自身が住んでいる国のことを深く考えることができないう者が、他国を語ることはできないと思います。今後、自分の身の回りのこと以外にもしっかりと目を向け、きちんと考えていきたいです。

**国を越えてつながり
よりよい社会を**

の活動は、私たちJALグループが取り組む4つの分野における課題解決につながるものも多いと言えます。

JALグループは、コペルニクとそれぞれの強みを活かした協業を通じて、日本と世界を結んで、途上国の社会課題解決に貢献するとともに、日



現地を訪れて、自分の目で見て、そして体験したことは、若いレポートたちにも多くのものを残したようです。

途上国と日本の未来のために

三つ目の取り組みは、「テック・キャラバン」。私たちは、このプロジェクトを通じて、日本発の途上国向けのテクノロジーを発掘し、それを必要なところに届けることで、途上国の課題解決のみならず、日本のものづくり産業と地域経済の活性化にも貢献したいと考えています。そこで、コペルニクとともに日本各地のものづくり企業や大学に、途上国の現状や必要とされている技術・製品を紹介する機会をつくることにしました。

2013年は高知で、2014年6月には秋田で開催。企業向けのセミナーのほか、さまざまな技術を持つ企業を個別に訪問させていただきました。また、高知工科大学・秋田大学との共催で大学生向けのセミナーも行

ソーラーライトを届けるコペルニクの取り組み例とJALとの共通点

